

令和5年度小松市立向本折小学校 学校評価1 (年度末)

めざす児童生徒像

つよく やさしく かしいこ子
 【つよさ】 真の強さをもった子に
 【やさしさ】 すべての人にやさしい子に
 【かしいこさ】 みんなでとことん考える子に

※児童生徒結果-教員結果・保護者結果

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	中間				年度末				達成状況の分析	改善策
				教員		児童		教員		児童			
				結果	※差	結果	※差	結果	※差	結果	※差		
学校重点項目 （学校で設定）	生徒指導	①②の項目について、肯定的回答をしている職員の割合が平均90%以上 ③④の項目について、肯定的回答をしている児童の割合が平均85%以上	① 生徒指導の3機能を活かした授業づくり、安心・安全な居場所づくりに努めている。	100		100						<ul style="list-style-type: none"> ・調査項目①②において中間、年度末ともに100%で目標指数を達成することができた。日々意識を高くして指導していることが分かる。 ・③の項目において、中間評価の結果よりも児童生徒、保護者ともに結果が上がっており、活動が終わった後それぞれ振り返り、手紙のやりとりを行ったりした成果だと見える。 ・④の項目においては、目標指数は上回ったが、保護者アンケートの結果では、80.2%とまだ課題が残る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・①②の項目においては継続していくとともに夏休み前に行ったSSWを招聘した校内研修などで実践を交流できるとよい。 ・④の項目については、プラスの言葉を認め、マイナスの言葉については児童に考えさせていくといった両方の指導を継続して行う。新入生保護者対象の子育て講座で講師のSCにプラス思考の言葉かけをするコツをお話いただいたことが良かったので来年度以降も続けていけるとよい。また、学級懇談会のテーマに位置づけるなど、保護者との連携をはかる。
			② 児童の自己有用感を高め、共感の人間関係を育むように努めている。	100		100							
			③ 児童が「自分にはよいところ、成長したところがある。」と実感している。	100	87.3	94.3		100	98.6	97.2			
			④ 相手の気持ちを考えた言動をしている。	94.1		91		94.1		92			
			集計										
重点項目 （画外）	業務改善意識の向上	①②③の項目について、肯定的回答をしている職員の割合が平均90%以上	① 80時間を超えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。	70.6		94.1				9～12月の時間外勤務時間は平均22時間で、1学期よりも減っている。9月以降も学習支援員やSSSに教材準備、提出物調べ等を依頼し、業務軽減を図られた。共有や協議が必要な議事を精選して主任会を開いたり、職員会議をなるべく5限日以外の日に設定し、5限後の業務時間を確保できるようにしたが、他の会が入りできないこともあった。	<ul style="list-style-type: none"> ・3学期は短く年度末の業務があるため計画的に業務が行えるよう共通理解を図る。 ・定例会議を5限日以外の日に設定し、協議内容を精選する。 ・来年度に向けての目標の検討の際、教職員の教材研究の時間の確保も配慮できればよい。 		
			② 学校組織の中で自分の役割が明確であり、創意工夫しながら取り組むことができる。	100		100							
			③ 定時退校ウィークの意義を理解し、業務改善のために実践していることがある。	64.7				88.2					
			集計										
小松市共通重点項目	学校研究	①②の平均が中間・・・85%以上 年度末・・・90%以上	① 研究主題に迫る目指す授業スタイルを共有し、単元（授業）構想シートなどの具体的な取組を共通実践している。	100		100		<ul style="list-style-type: none"> ・調査項目①②ともに、肯定的回答が目標指数を上回り100%という結果であった。計画的に研究授業や模擬授業を行ったことで、国語科における授業づくりが共通理解された結果だと思われる。そして、何よりよりよい授業がしたいという熱心な教員の思いの結果といえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3学期も各クラスで「目指す授業像」の項目を行い、来年度に向けて意欲の向上を図る。 ・1学期から共通理解した取り組みについて、再度呼びかけを行い、取り組み状況を把握する。 				
			② 授業研究では、教職員一人一人が研究の重点を意識して主体的に取り組んでいる。	94.1		100							
	指導力の向上	①④の児童の割合が中間・・・80% 年度末・・・85%	① 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	94.1	89.2	-4.9	94.1	93.9	-0.2	<ul style="list-style-type: none"> ・調査項目①④ともに、児童アンケートの結果が85%以上となり、目標指数を上回ることができた。 ・①の項目において、児童の肯定的回答の割合が、中間評価の結果から4.7%の上昇が見られた。教員の授業改善が児童の「やってみたい」を引き出していると思われる。 ・③の項目において、教員の結果が中間評価と比較すると、35.3%の上昇が見られた。授業における児童のアウトプットする時間の確保と、その指導の意識の向上が結果に結びついたと考えられる。 ・④の項目では、教員の割合が約17%、児童の割合が約5%上昇した。前回の結果から、「グループ学習の約束」を意識して指導することで、必要感のあるグループ活動ができるようになる。 			
			② 児童生徒は、学級の友達と関わり合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできている。	82.4	89.2	6.8	88.2	89.2	1				
			③ 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わらない、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	52.9	81.6	28.7	88.2	89.2	1				
			④ 児童生徒は、話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えを伝えている。	64.7	87.3	22.6	82.4	92.5	10.1				
			⑤ 児童生徒は、振り返り活動の中で、授業の目標に沿って自分の学びの姿を振り返り、学びに対する達成感を得られたりしている。	94.1	89.2	-4.9	100	94.3	-5.7				
			⑥ 児童生徒は、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している。	100	93.4	-6.6	94.1	96.7	2.6				
	学力の向上	カリキュラム・マネジメント	①②③の平均が85%以上	① 指導計画の作成に当たっては、学校の教育目標の実現に向け、各教科等の教育内容を教科横断的な観点で組み立てている。	100		94.1		各担任や授業を担当している級外職員が、児童の実態や課題を把握し、常により良い指導を目指している。共通実践にも全クラスでしっかりと取り組み、本校児童の課題改善に努めた。小中連携の取組の1つとして実践している算数検定は、2学期終盤に本校児童の実態に合わせて取組内容を変更したことで、教員アンケートのポイントが上がったのではないかとと思われる。ただ、取組内容の変更が学期の終盤であったため、大幅な上昇ではなかった。	2学期終盤に実施した算数検定の内容の改善を、3学期以降、さらに来年度も継続する。今年度6月から実施した共通実践（見直し）の徹底、記述式振り返りの指導の成果は、今年度は数値として表れなかったが、学習に対する意識の改善にはつながっていると思われる。検証方法を改善したい。 基礎的な学力、自分の考えを文章で表現する力などの定着に依然として課題がある。これまでの取組を継続するとともに、授業の中で児童の学力を高めていけるよう、学校研究と連携した取組を考え、実践していく必要がある。			
				② 児童生徒や学校、地域の実態を捉えて教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。	82.4		94.1						
③ 全職員が学力向上の取組の目的や意義を理解し、課題の解決を期待できると納得して共通実践に取り組んでいる。				94.1		100							
④ 校区の小・中学校間で学力について情報交換し、課題について共有している。（小中連携）				64.7		76.5							
集計													
家庭学習	①②の平均が2学期85%以上 3学期90%以上	① 家庭学習の取組として、学習方法や課題の課し方等を校内で共通理解を図っている。	88.2	83.8	-4.4	94.1	80.5	-13.6	教員アンケートの結果から、職員が目的を共有し取組を実践できたと言える。反対に、児童アンケートの肯定的回答のポイントは低かった。1学期と2学期の家庭学習チェックの集計結果を比較すると、児童の家庭学習への取り組み方が向上していたが、目指している家庭学習の取組方法が定着していないことが要因と思われる。	保護者や児童に向けて、家庭学習への意識を高める啓発を粘り強く継続していく。毎日「学年×10分」の宿題学習時間を確保できるよう、宿題の量、ドリルや自学の取組ませ方を年度初めに全職員で共通理解して実践することが必要である。宿題のチェックは担任が行い、担任からタイムリーに認める声掛けや指導を行っていく。			
		② 学習用端末を活用した家庭学習に取り組めるよう課題を工夫している。	100	84.4	-15.6	100	80.7	-19.3					
		集計											